

# 介護職環境の改善のための国際調査比較研究

(北東アジアの3国 — 日本、韓国、台湾の介護職従事者の実態調査)

A comparative study of international research to improve long-term care environment

(Survey of nursing workers in Korea Japan Taiwan in Northeast Asia 3 countries)

朴 峰寛<sup>※</sup>

Park Bongkwan<sup>※</sup>

## Abstract

A comparative study of international Studies to improve the nursing environment (research on the actual situation of care workers in the three northeast Asian countries-Korea Japan Taiwan) The purpose of this study is to grasp the general status of care workers in nursing homes in Korea, Japan, and Taiwan, and to understand the effects of the comparative analysis on the impact factors and the service delivery to the users in the care workers' satisfaction. In addition, the purpose is to improve the working environment of the care workers to improve the business of care workers, and to provide optimal services through the interaction between the care facilities and users and staff.

キーワード：介護職環境、国際連携調査

日本の通産省の試案結果（2018年5月8日付けの日本の産経ビズの報道）によると、2035年には介護に関連した人材の不足が79万人に達すると予想されている。また、介護予防を通じて老人たちの社会経済的活動性を高めることにすれば、それが結局、莫大な経済活性化に寄与することに繋がるので介護・サポーターなど人材開発を通じた介護人材確保を求めると、包括的な介護職環境の改善を通じた“介護離職率ゼロ”を目標に中長期的な対策作りの必要性を指摘している。

本研究の目的は韓国、日本、台湾の療養施設（介護に勤務する従事者の一般的である現状を把握して療養従事者の職務満足に及ぼす影響と適正人員配置人員が組織や対象者のサービス提供に及ぼす影響を把握しようとする。ともに、療養従事者の業務の向上に向けて業務補助者の役割の重要度を一緒に把握して療養従事者の勤務環境を改善して、療養施設と対象者、職員間の相互作用を通じて最適のサービスを向上させたい。

## 研究設計

1. 分析資料
2. 介護従事者の療養サービス提供に及ぼす影響のアンケート調査

---

※日本経済大学経営学部経営学科

本研究では韓国、日本、台湾の介護施設の介護職従事者800人余りのアンケート調査を通じて調査の内容をもとに作成されており、調査は2018年2月から3月まで2ヵ月間、同時に実施された。回答者の一般の現況（性別、年齢、結婚の如何、勤務形態、勤務経歴など）で療養保護士（介護）としての適性、独自性、必要性、利用者との連帯感、業務の発展への寄与度、賃金や勤務評価の公正性業務補助の形の支援役かどうか、その他（保有資格証、保護する対象者の類型など）に計30問で構成して調査を実施した。

本研究で重要な変数として扱っている介護従事者の療養補助士から業務補助の形で支援を受けられる課題だけでなく、一般的な内容である回答者の一般の現況（性別、年齢、結婚の如何、勤務形態、勤務経歴など）で療養保護士（介護）としての適性、独自性、必要性、利用者との連帯感、業務の発展への寄与度、賃金や勤務評価の公正性、業務補助の形の支援役の必要性、その他（保有資格証、保護する対象者の類型など）に計30問で構成して調査を実施した。

## 変数の測定と分析方法

### 1) 変数の測定

#### (1) 従属変数

本研究では三つの従属変数を扱う。各国別のアンケート調査項目と信頼度は下記のようにすべて適切な信頼度を見せている。

#### 〈従属変数のアンケート調査項目〉

- 私は介護従事者として利用者をよくもてなしていると思う。
- 介護従事者としての自身の体質に合うと感じている。
- 私は介護従事者として他の職種（医療等）と違って、独自の面を持っている。
- 私は同じ介護従事者に対して、人間的に強い連帯感を感じている。
- 私は介護従事者として利用者から必要性を感じている。
- 私は介護従事者として利用者とともに、連帯感のようなものを感じている。
- 私は介護従事者として後輩にモデルとなっている。
- 私は他の介護職員に仕事をやめない様と考えている。
- 私は自分の目標になりそうな良い介護従事者らに会いたい。
- 私は介護従事者業務の発展に寄与すると感じている。
- 私は介護従事者としての専門性が高いといえる。
- 私は介護従事者職が人類に貢献できる職業だと思う。
- 私は介護従事者として社会的に認められないという感じを受ける。
- 私は介護従事者として技術向上に努力している。
- 私は介護従事者として賃金に見合うことをしていると思う。
- 私は介護従事者として、いつでも本人自ら能動的に仕事をしている。
- 私は介護従事者として利用者を見る能力（目）を備えていると思う。
- 私は介護従事者として経済的に独立（自立）している。
- 私は介護従事者以外のことを考えていない。
- 私は介護従事者として医療職など人たちと連帯感を感じている。
- 私は介護従事者として力量が減退し始めたと思う。
- 貴下が勤務する施設は勤務評価が公正に行われていると思いますか？
- あなたは介護補助士（仮称）から業務補助の形で支援を受けることがあるなら自分が担当している業務に役になると思いますか？

## (2) 独立変数

先立って言及したとおり本研究では国ごとに各質問項目に及ぼす影響を見てみよう。各項目別にとっても必要と考える場合‘5’でコーディングして 考えていない。と回答した場合、‘2’、わからねえ‘1’でコーディングした。

その他にも性別（男、女）、年齢、結婚の如何、介護従事者として勤務期間、勤務契約形（時間制、契約職、正社員、ギター）、勤務経歴、介護従事者として資格、対象者類型（複数回答）などが含まれた。その他独立変数に対する具体的なアンケート調査項目は、下記のようなものである。

〈独立変数のアンケート調査項目〉

性別	• 男 = 1、女 = 2
年齢	• 10代 = 1、20代 = 2、30代 = 3、40代 = 4、50代 = 5
結婚	• 1 = 未婚、2 = 既婚、3 = 離婚、4 = 死別、5 = その他
勤務期間	• 5年未満 = 1、5年～10年以下 = 2、10年～15年以下 = 3、15年～20年以下 = 4、20年～25年以下 = 5、25年～30年以下 = 6
勤務の契約形態	• 1 = 時間制、2 = 契約職、3 = 正社員、4 = その他
資格保有 (複数回答)	• 1 = 社会福祉士、2 = 看護師、3 = 看護助務士、4 = 介護福祉士、5 = その他
対象者のタイプ (複数回答)	• 1 = 中風、2 = 痴呆、3 = 老人性疾患（痴呆、中風を除く）、4 = 混合型疾病老人、5 = その他

## 2) 分析方法

本研究では、統計頻度分析を活用し、各問題についての頻度を把握した。

## 分析結果

### 1) 調査対象者の特性

分析には韓国300個、台湾302個、日本170個のサンプルが使用されたが、応答者うち韓国は計298人の中で男性15人（5%）、女子282人（95%）であることが分かった。

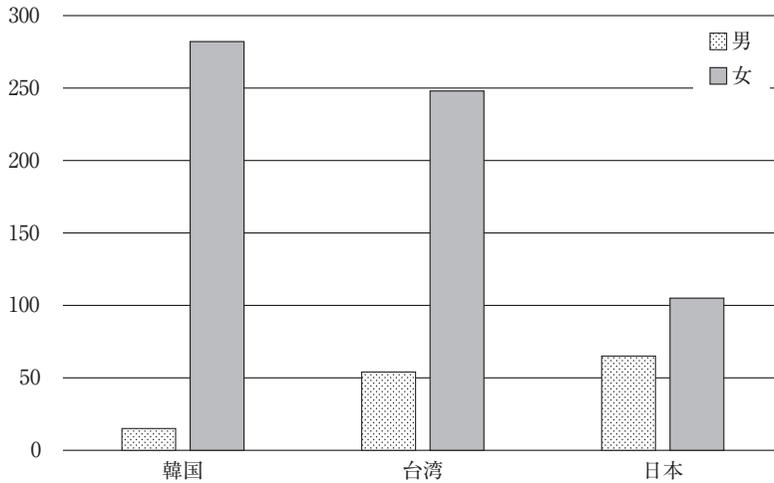
アンケート回答人数のうち、95%以上が女性であることを知ることができた。

台湾の場合、計302人の中で男性54人（17.9%）、女子248人（82.1%）だった。

アンケート回答人数のうち、80%以上が女性であることを知ることができる。

日本の場合、計170人の中で男性65人（38.2%）、女子105人（61.7%）だった。

アンケート回答人数のうち、60%以上が女性であることを知ることができる。下記表のように介護従事者性比の比率が女性が圧倒的に高いことを知ることができる。

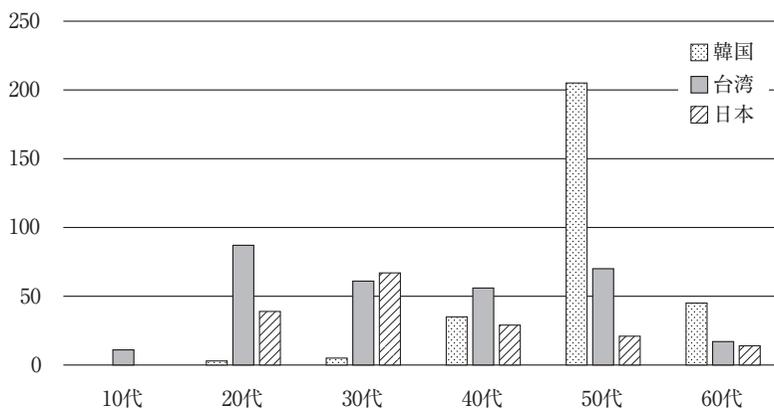


〈表1 性別〉

調査対象の年齢は、韓国の場合、総293人のうち50代が205人（70%）、60代以上が45人（15.4%）、40代が35人（12%）に現れたこと。、アンケート回答人数の約70%以上が50代にのぼり、台湾の場合、計302人のうち20代が87人（28.8%）、50代が70人（23.2%）、30代が61人（20.2%）に現れたこと。、アンケート回答人数の約30%程度が20代だった。

日本は計170人のうち30代が67人（39.4%）、20代が39人（23%）、40代が29人（17%）に現れたこと。、アンケート回答人数の約40%が30代だった。

下表のように韓国の場合50代、60代が高いものと見られる、台湾の場合年齢がまんべんなく分布されており、日本は20代～40代の若年層が分布していると見られる。



〈表2 年齢〉

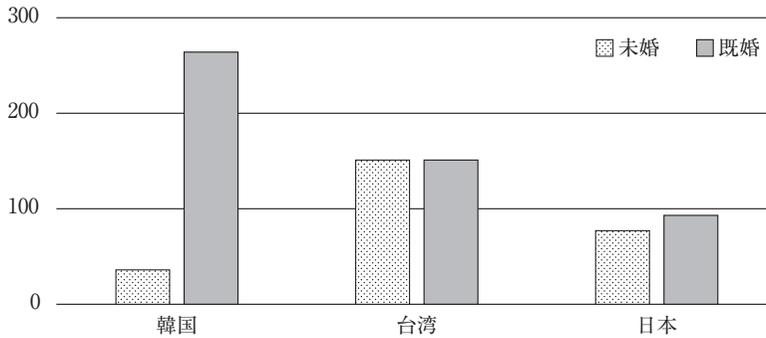
調査者の結婚の可否は韓国の場合、計300人のうち未婚36人（12%）、既婚者264人（88%）として現われ、アンケート回答人数約80%が既婚であることが分かった。

台湾は計302人のうち未婚151人（50.0%）、既婚者151人（50.0%）だった。アンケート回答人数各

半分が未婚、既婚者が分かった。

日本の場合、計170人のうち未婚77人（45.3%）、既婚93人（54.7%）で調査され、アンケート回答人数約55%が既婚で分かった。

韓国を除外した二つの国は、既婚、未婚の割合が似ているものとみられる。

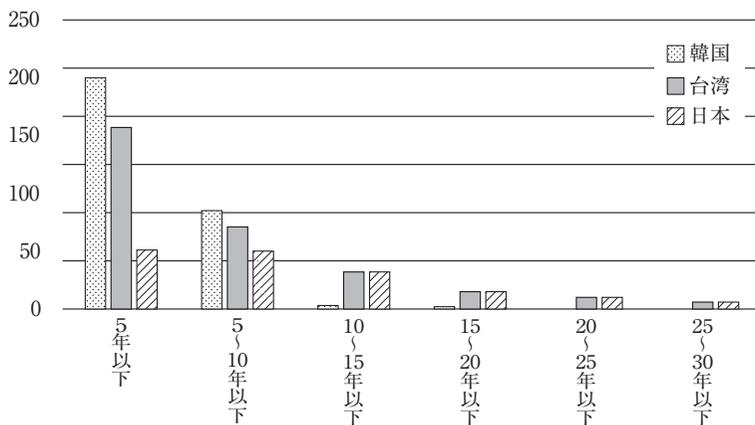


〈表3 結婚したかどうか〉

勤務期間の場合、韓国は、介護従事者に勤務期間を調査した結果、‘5年以下’ 200人（68.9%）が最も多く、‘5年～10年以下’（29.3%）が2番目を獲得した。

台湾は、‘5年以下’ 157人（52%）、‘5年～10年以下’ が71人（23.5%）だった。

日本は、‘5年以下’ 51人（30%）、‘5年～10年以下’ が50人（29.5%）だった。勤務期間の場合三国家いずれも5年以下が最も高く、次が5年～10年以下で現れた。

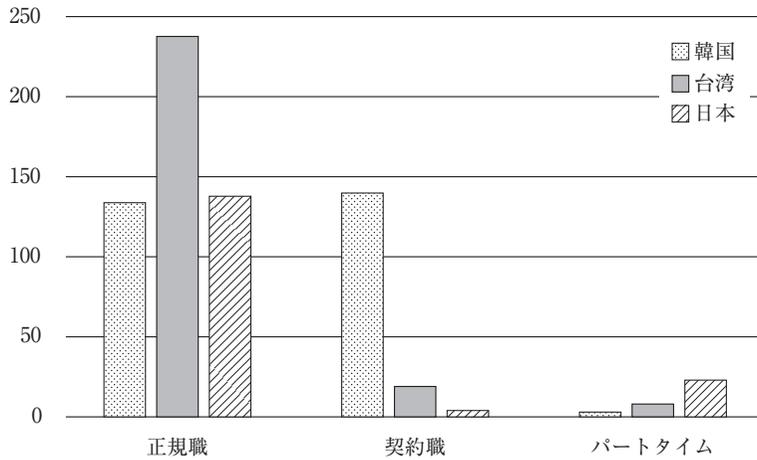


〈表4 勤務期間〉

勤務の契約形態の場合、韓国は、介護従事者として働いて契約形態調査した結果‘契約職’が140人（50%）で最も高く、次の順で‘正規職’が134人（48.4%）高かった。台湾は勤務の契約形態は正社員、契約職、兼職、その他などで‘正規職’が238人（78.9%）で最も高い頻度であった。

日本は、‘正規職’が138人（81.2%）、‘パートタイム’が23人（13.5%）だった。

勤務の契約形態は韓国を除外した二つの国は、正規職が最も高く、韓国の場合契約職の次に正規職が最も高い。

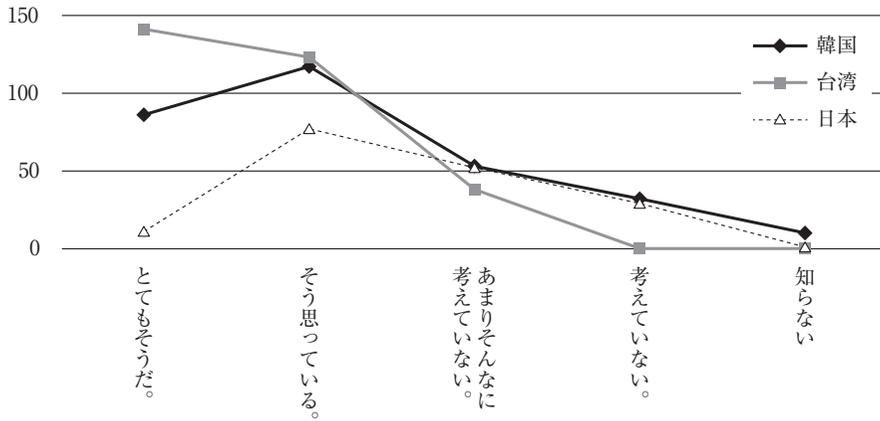


〈表5 勤務の契約形態〉

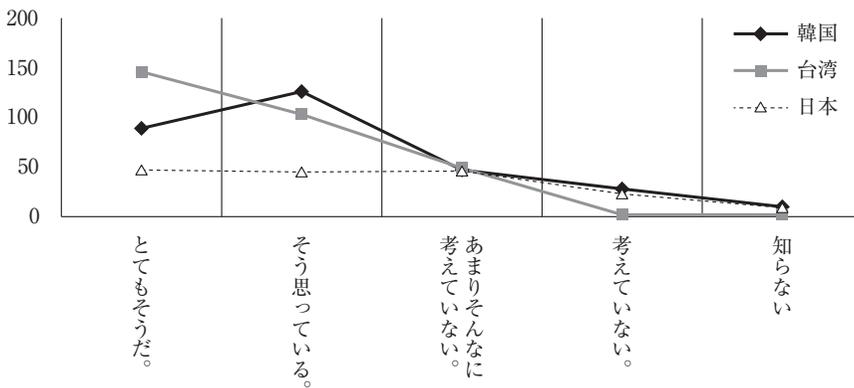
## 結 論

本研究結果からいくつかの共通点を導き出すことができた。  
まず国家別に共通して肯定的に回答した項目については、

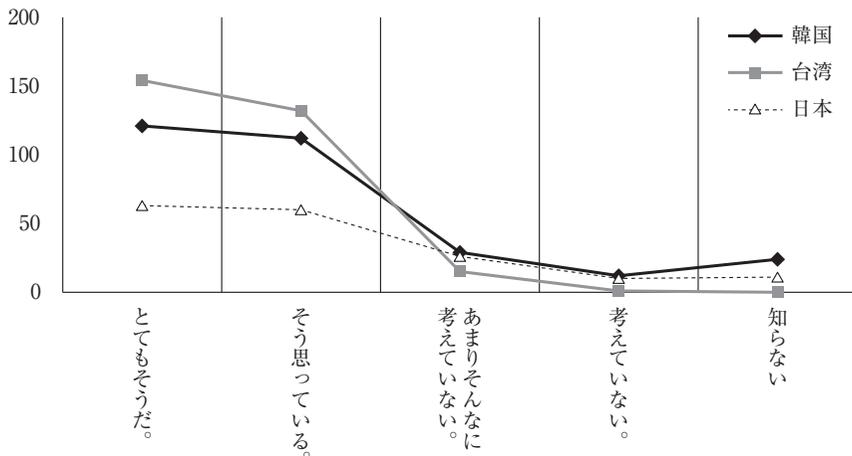
1. 介護従事者として利用者から必要性
2. 介護社員仲間が仕事をやめないでほしいという考え
3. 目標になるような介護従事者の出会いかどうか
4. 介護従事職が人類に貢献できる職業
5. 医療職などの人々との連帯感
6. 利用者を看る能力（目）
7. 業務補助の形での支援に関する期待に‘そう思う’等の意見が高かった



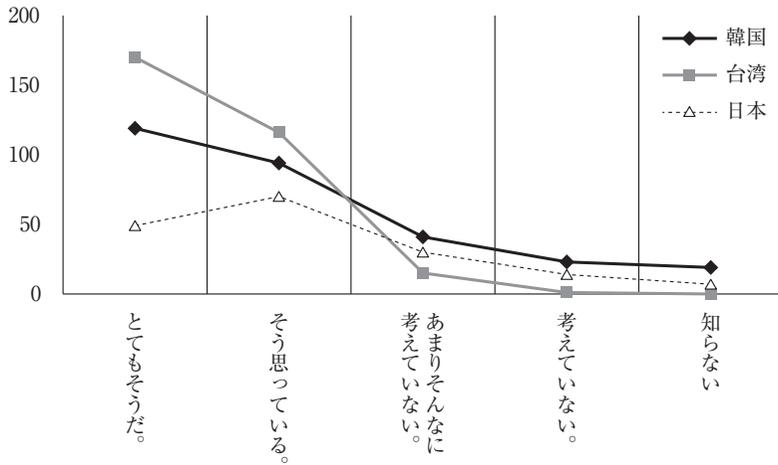
〈表6 介護従事者として利用者から必要性〉



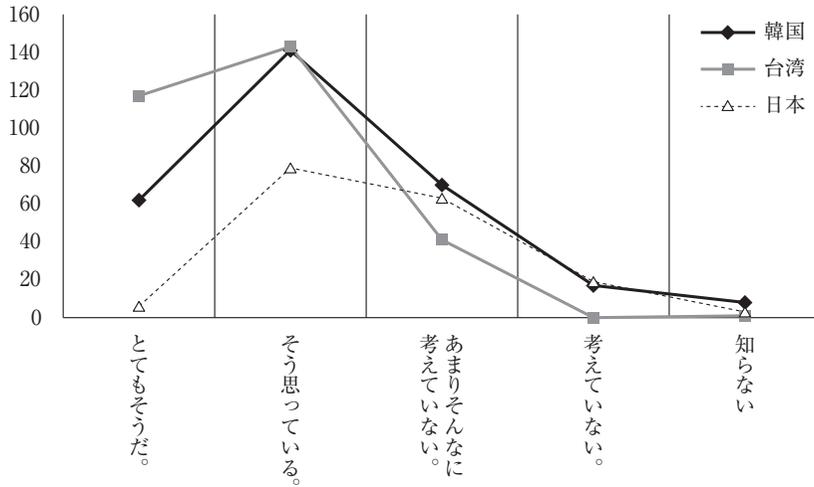
〈表7 介護社員の仲間が仕事をやめないほうがいいという考え〉



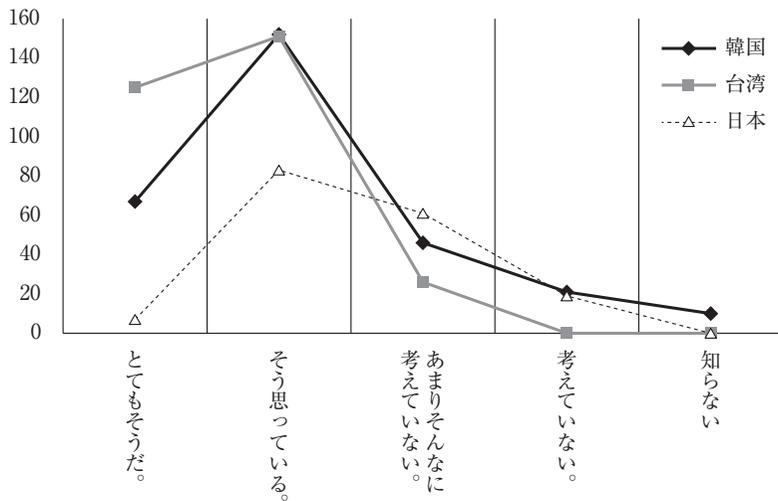
〈表8 目標になるような介護従事者の出会いかどうか〉



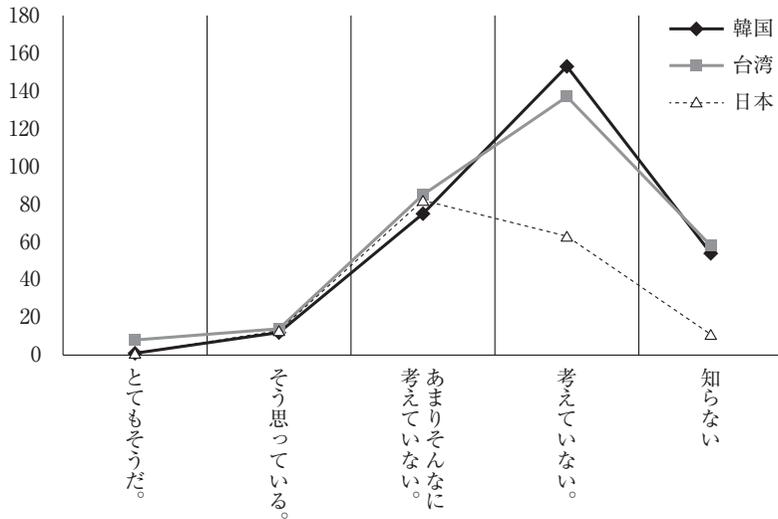
〈表9 介護従事職は人類に貢献できる〉



〈表10 医療職などの人々との連帯感〉



〈表11 利用者を見る能力 (目)〉



〈表12 業務補助の形での支援に関する期待〉

国家とは別として、利用者からの必要性を感じながら同僚職員が辞めないで欲しいと考えることを知ることができる。ともに、目標になるような療養従事者との出会いを求め、人類に貢献できる職業だと把握される。これを見て個人（利用者側）、社会（人類の貢献）、介護従事者（医療職などの人との連帯感、利用者を看る力）に関する部分が整っており、目標になる介護従事者を養成するために、介護従事者の力量を育て、長期勤続ができるように職環境が構築（療養補助士（仮称）から業務補助の形で支援を受けるように職環境の整備など）出来れば回答者たちの願いが成立になるうでしょう。

次に国家別の差を見せる回答を考察すると、

1. 他の職種との独自性
2. 介護従事者として賃金に見合った仕事をしていると思うかどうか
3. 経済的独立性
4. 介護従事者として力量の減退

1) 自分は介護従事者として他の職種（医療等）と違って、独自の面を持っている。

韓国は職種に対する独自の面を大きく体感できず、台湾、日本の場合は独自性があると考えられることを知ることができる。

2) 自分は介護従事者として賃金に見合うことをしていると思う。

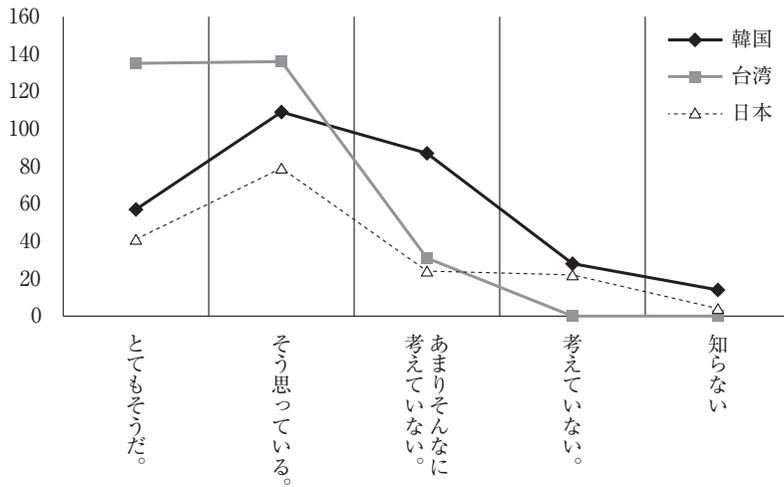
国別に考えが違うことがみられる。韓国、日本の場合は賃金に見合うことをしていないと思ってるが、台湾の場合は賃金に見合った仕事をしていることを示している。

3) 自分は介護従事者として経済的に独立(自立)している。

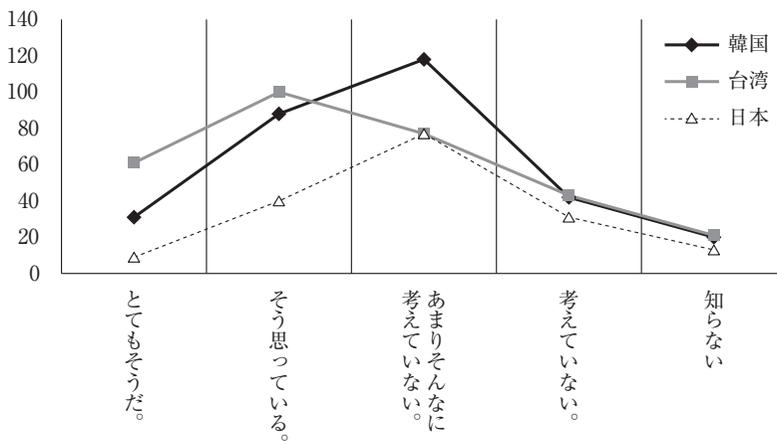
アンケート調査の結果、韓国は経済的独立に対して中間レベルの回答を示した反面、台湾の場合、経済的に独立していると回答した割合が著しく高いことが分かった。日本の場合は経済的に独立出来ていないの回答率が高かった。これは国別に相違する結果を示してる。

4) 自分は介護従事者として力量が減退し始めたと思う。

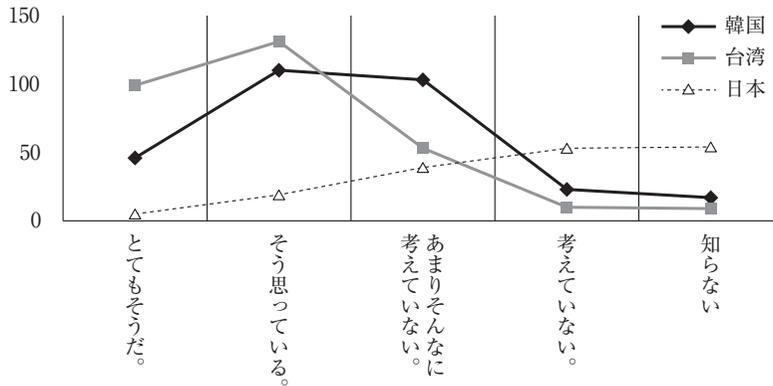
韓国は、介護従事者として力量が減退されていないという答えが高く、台湾は力量が減退され始めたという回答した頻度が高いことを知ることができる。日本の場合、中間レベルの回答率を見せた。



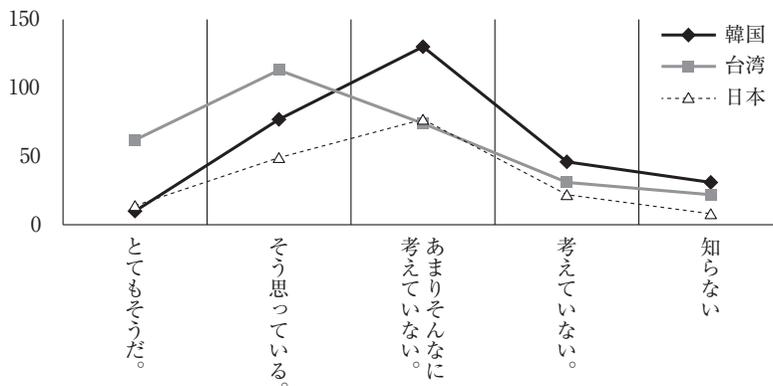
〈表13 他の職種との独自性〉



〈表14 療養従事者として賃金に見合った仕事をしていると思うかどうか〉



〈表15 経済的独立性〉



〈表16 療養従事者としての力量の減退〉

上の結果をもとに、国別に政策的介入が必要なサービスを把握して見ると、韓国の場合、職種に対する独自性を体感しないと分かった。これを見て介護従事者だけが出来る部分を発掘し、力量を強化させる必要性が感じられる。

また、韓国、日本の場合、賃金に見合うことをしていないと思う傾向だが、これとともに、経済的独立も比例することを知ることができるため、韓国、日本の療養の従事者の賃金も引き上げられる必要があるとみられる。

一方、台湾と日本の場合 力量が減退したり、中立的な立場を見せてるが、上記と共通的な意見で介護従事者に対する専門的教育や力量を強化することができるよう支援する必要があるでしょう。

最後に国家別回答の特徴を考察すると、韓国、台湾の場合ほとんど問題に肯定的な回答を見せたが、日本の場合、中立的な立場を見せたり、各質問項目に対して中間レベルの回答率と否定的な回答が多いことが分かった。上記のような質問項目は以下の通りである。

1. 利用者をよくケアしているかどうか
2. 介護従事者としての自分の体質
3. 介護従事者の仲間に対する人間的な連帯感
4. 利用者との連帯感
5. 介護従事者として後輩にモデルとなっているかどうか
6. 介護従事者業務の発展に貢献の程度
7. 介護従事者としての専門性
8. 介護従事者としての社会的認定
9. 介護従事者としての技術向上に向けての努力
10. 介護従事者としての能動性
11. 介護従事職以外の仕事を考えてる
12. 勤務する施設の勤務評価の公正性

上記のように日本が中立的な立場であり否定的な回答をした専門性、社会的認定、技術の向上ができるように勤務機関、国家的レベルで支援し、その外的な部分（利用者をよく仕えて人間的な連帯感を持って能動的に働けるよう支援など）を肯定的に変化させるように民官産が協働的に努力していかなければならないと思うのである。

以上の結果に。韓国、日本、台湾の介護従事者たちの業務環境改善に及ぼす影響に関する分析を通じて各国の介護従事者たちの業務環境の現状を把握することができており、これは介護従事者たちの勤務環境の改善に向けて、介護従事者の処遇改善と自尊心の向上そして介護の補助職員を支援するなど業務環境の改善策を模索する必要があることが分かった。今回の国際比較研究を通じて各国の介護従事者たちの職務満足度を高める体系的な制度が用意されて、介護従事者たちの暮らしや職環境の質の向上を目指す取り組みが今後共科学的かつ合理的な多様な技法で持続的に研究が行われるべきであると思うのである。

#### 参考文献一覧

- 産経ビズ (2018). 『日本通産省試案結果』, 2018, 5, 12.  
社会保険研究所 (2010). 『介護保険制度の解説』, 東京出版.  
Social security system of Korea, National Health Insurance Service, 2017.  
2016 노인장기요양보험통계연보 (老人介護保険統計年報), National Health Insurance Service, 2017.  
長期照顧保險, Analyzing the Practice Model of Korea Long Term Care Insurance, 陳 伶珠, 台湾 華騰文化出版, 2015.